

高校生まちづくりスクールミーティング

『これまでの100年、これからの100年』～高校生の主張～
in 県立小牧高等学校

実施報告書



概要

日時・場所

令和5年11月10日（金）午後3時30分～5時
県立小牧高等学校 会議室

参加者

小牧高等学校生徒の皆さん 15人
小牧市長 山下 史守朗

主催

小牧市

市長あいさつ

皆さんこんにちは。

今日は小牧高校の生徒の皆さんにお集まりいただき、スクールミーティングを開催します。大変忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。

今年は、小牧高校が創立100周年という記念の年です。3年間の高校生活の中で、記念の年に立ち会うということは、とても貴重なことです。皆さんは歴史と伝統のある高校で生活しているということを感じながら、ますます勉強に部活に、高校生活を楽しんでいただきたいと思います。

100年後から見たら、今が100年前になります。皆さんは、次の100年に向けて、まさに歴史を刻んでいるということです。ぜひこれからの後輩たちのために、よりよい学校づくりに努めていただければと思います。

皆さんはまちづくりについて「市役所がすることで、身近に感じられない」というイメージを持っているかもしれませんが、まちづくりは市民一人一人が主役で、自分のこととして考えていただくことが大切です。まちづくりに参加する機会はたくさんあります。選挙もありますし、他にも市に対して意見を言う機会を設けています。今は、行政と市民や市民団体、企業、学校など、みんなが力を合わせてまちづくりを行っていくことが求められる時代になっています。

まちづくりスクールミーティングは、中学生や高校生の皆さんと意見交換する機会として、毎年一回ずつ行っています。今回は、それぞれ勉強や部活など忙しい中、事前に準備をしてくれていると聞いて、非常に楽しみに来ました。皆さんから発表いただく意見を聞いて、まちづくりに活かしていければと思います。楽しみながらお互い有意義な時間にしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

趣旨説明

ありがとうございました。では、今回の企画について簡単に説明します。

「高校生まちづくりスクールミーティング」は、まちづくりについて自分たちで考え、アイデアを市長に直接伝えるという機会を通じ、まちづくりへの興味・関心を高めるきっかけづくりとして、平成25年からスタートし、市内の4校が協力して毎年開催している市の取組です。

今回、広報広聴課さんからお話をいただいたのは、今年が、本校が創立100周年を迎える記念すべき年にあたるというのが大きな理由です。また、今年が100周年イヤーとして、小牧駅周辺イルミネーションの審査やギネスワールドレコード挑戦など、様々な記念事業を行っており、去る9月29日には市民会館の大ホールにて、記念式典を盛大に開催しました。このような記念すべきタイミングでのオファーでありましたので、ぜひ協力させていただきますと快諾させていただきました。

今回のスクールミーティングは、『これまでの100年、これからの100年』～高校生の主張～と題し、3つのグループに分かれて、事前にテーマごとに話し合い、高校生の主張という形で、市への意見・提案を生徒たちが一生懸命考えました。

市長の前で発表するという貴重な機会ですので、参加する皆さんは、堂々と元気よく発表してくれると思います。ぜひ頑張ってください。

Bグループ発表

私たちのグループは、歴史・文化・観光の中から観光について考えることにしました。なぜかという、小牧市の魅力にながると考えたからです。

魅力とは、辞書によると「人の心をひきつけ夢中にさせる力」とあります。ということは、魅力は人によって異なるもので、一概には言えないものです。



では、なぜ魅力が必要か。自分に魅力があれば、周りを夢中にさせられることで自分に自信が持てるようになり、自分を愛せるようになり、最後には自分に誇りが持てるようになるのではないのでしょうか。それでは、今回の発表の流れです。

最初に、高校生から見る小牧についてです。

まず、いい点です。私たちが感じている小牧のいい点は、歴史のあるものに見ごたえがある、コロナなどの遊び場がある、メインストリートのイルミネーションに季節感がある、図書館がすごい、という点です。

次に悪い点です。私たちが感じている悪い点は、商業施設が弱い、交通の便が良くない、市外から人が来ない、という点です。

ここで、現在インターネット上での小牧市の観光スポットランキングを見てみましょう。第3位が小牧山です。第2位は田県神社、第1位はメナード美術館でした。しかしこの3つは、高校生はあまり行かないし、全国的にも知られていないし、もう少し魅力が必要かもしれません。

そこで私たちは、小牧市の魅力アップには観光と宣伝が必要だと考えました。

なぜなら、小牧で遊べるようになると、自分たちのまちを愛せるようになり、住むまちに誇りを持てるからです。そして、市外から遊びに来てもらえることで経済が発展します。すると商業施設がさらに充実し、市民も市内で買い物をするようになります。

小牧高校生の約8割は、遊ぶところを探すときに、まずインターネットの検索エンジ

ンで調べて、次にSNSを見て決めているそうです。SNSの発信力や拡散力は侮れません。

そこで、新たな観光スポットとして、写真映えするモニュメントを考えました。小牧山城が入るようなモニュメントを作れば、誰もが写真を撮りたくなる観光スポットになると思います。また、四季の森にモニュメントをつくと、親子で楽しめるスポットになると思います。



そして、ただモニュメントをつくるだけではなく、世界に向けて発信する必要があります。小牧市の公式Xなどで投稿して、訪れた人にSNSで投稿してもらうよう促します。SNSをやっていない人や全国に発信することに抵抗がある人には、スタンプラリーをしてもらいます。そして投稿やラリーに参加することで、割引券やプチギフトをもらえるようにすることで、観光客がSNSで発信してくれるようになると思います。

SNSの発信は県だけでなく国をこえてでき、かつCMのようにお金がかかることはありません。またSNSで話題になることで、テレビ局から取材が来る可能性もあります。市内の店にもお客さんが集まるようになり、小牧市にお客さんが来ることが分かれば有名店も小牧市に来てくれるかもしれません。しかし問題があります。

まずは材料費や施工費の予算についてです。良いものを作ろうとするとそれなりに予算が必要で、それをどこから捻出するかは問題です。また、賛同してくれる店がどれくらいあるかです。割引になる商品も写真映えを狙ったほうがよいですが、商品の開発も必要となるので、市からの補助がないと協力が難しい店はたくさんあると思います。



最後に、小牧市は子育て支援も手厚く、大きな企業もある住みやすいまちです。だからこそ、もっと市民が市外の人に自慢できる魅力をつくり上げたいです。歴史・文化・観光が一つになったとき、とても魅力的なまちになると思います。

市長講評（Bグループ発表後）

ありがとうございました。大変興味深く発表を聞かせていただきました。何かを調べるときに、若い世代の皆さんはSNSで調べる人が多いんですね。

四季の森にモニュメントをつくるという話がありました。同じような発想だと思ったのが、こども未来館です。こども未来館をつくるにあたって、ラピオの3階と4階の床を抜いて大きな遊具をつくりました。写真映えするようなもので、市外からも多くの方に利用していただいています。

これまで小牧駅周辺というのは、目的地となる場所がありませんでした。若い世代の皆さんの目的地になる場所として、こども未来館と図書館をつくったということです。特に小さなお子さんのいるご家族が多く来てくれているので、そういった方々を核として周辺に飲食店などができてくるといいなと思っています。人が集まるからお店ができて、お店ができたから人がさらに集まる、というよい循環ができるように考えているところです。

モニュメントをせっかく作っても、一時的なものではいけないと思うので、どう続けていくかは工夫が必要です。これだけSNSも発展して、写真や動画を個人が発信できる時代になりました。皆さんも、一日一回くらい小牧のことを発信してくれたら嬉しいです。皆さんの投稿が小牧市に来る人を増やすことにつながったらいいですね。

割引と言う話もありました。今、小牧山歴史館とれきしるこまきの共通券は200円です。小牧山に来てくれた観光客が写真を撮って、発信した画面を見せてくれたら、入場料を無料にするというのも面白いですね。早速考えてみようかなと思います。

さて、一つスポットの紹介をします。皆さんは小牧神明社をご存じですか？小牧神明社は、織田信長が清須から小牧山城に首都機能を移転するにあたって、鬼門を守るためにつくられた神社です。小牧神明社には「連理の枝」という写真映えしそうな木があります。これは、1本の木が三つ又になっていて、3本の枝が2つにくっついているという珍しいものです。ぜひお天気がよいときに行ってみてください。



Cグループ発表

小牧高校が100周年を迎えるこの特別な年に、私たちは「これまでの100年」と「これからの100年」を考える機会を得ています。まず、100年前の小牧市を振り返ってみましょう。時代の変化や成長を経て、私たちはここまで来ました。教育、テクノロジー、文化など、あらゆる分野が進歩しました。私たちは、この100年の歩みを尊重し、その歴史と伝統を受け継いでいます。



そして、未来に向けての100年も、多くの挑戦と機会が待っています。しかし、未来を考えるときにはSDGsを忘れてはなりません。SDGsは、環境保護、社会的公正、経済の持続可能性など、私たちの未来に向けて重要な目標を示しています。小牧高校は、持続可能な未来を築くためにも、大いに貢献できるはずです。具体的な取り組みの一環として中庭開発計画や使用済みコンタクトケースの回収を行っています。

まず、中庭開発チューリップ編です。公益財団の方からチューリップを寄付していただいたので、中庭で育てることにしました。中庭はこれまであまり使われていなかったもので、草抜きや土壌改良などの整備をする必要がありました。肥料には使用済みチョークが使えるのではないかと思いました。小牧高校で使っているチョークは貝殻から作られています、貝殻は炭酸カルシウムという成分でできているので、土壌改良に使えることが分かりました。そこで学校中の教室から小さくなったチョークを集めたところ、土壌改良に十分な量を集めることができました。



中庭にはたくさんの石があったので、雑草を抜きながら石も取り除き、チョークをすりつぶして粉状にしてまきました。球根を100個ほど植え、先生や用務員さんの協力

で、きれいに咲かせることができました。

コンタクトケースは1日や1週間ごとに交換する使い捨てタイプを使用している人が多く、交換頻度が高い分、空のコンタクトケースもゴミとして多く捨てられているのが現状です。これまで小牧高校では、合計5,090個、約5kgも集まりました。回収したコンタクトケースは、リサイクル工場で粉碎され、再生ポリプロピレン素材に変わり、車や家電の部品、洋服、文房具、物流のプラスチックパレットなどの製品に生まれ変わります。



このような取組は、プラスチックごみの削減、資源の有効活用や温室効果ガスの排出量削減、海洋生態系への悪影響の軽減に貢献しています。これらはSDGsの項目である「8 働きがいも経済成長も」「12 つくる責任つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」の目標に該当します。この取組では、リサイクル準備作業や回収協力者へ送る小物製作など、障がいのある方が活躍できる場所を提供しています。リサイクル活動は雇用を生み出し、さまざまな方が輝ける未来につながります。

リサイクルに関して正しい情報を持ち、適切な方法で回収すると、焼却時のCO₂削減への貢献、プラスチックの化学物質が水に溶けだすことを防ぎ、自然への悪い影響を抑えられます。私たち一人一人がプラスチックごみを減らす努力をすれば、海に流れ着く量も減り、マイクロプラスチック化を防ぐ手助けにもなります。コンタクトケース自体は小さいものですが、リサイクルに取り組めば環境保全にとって大きな力になるのです。この取組に協力してくださる人にも感謝の気持ちを表し、より多くの人に参加できるように、宣伝活動を強化していきたいと思います。

私たちは、過去と未来をつなげSDGsを実現するために、一緒に頑張りたいと思います。

これからの100年、私たちの世代がSDGsを達成し、地球環境を守るために、力を合わせて歩いていくことが大切だと考えます。持続可能な未来に向けて一丸となって頑張らしましょう。

市長講評（Cグループ発表後）

お疲れさまでした。大変興味深い発表で、頑張ってくれたと感じました。

小牧市はSDGsに力を入れていて、尾張地域で唯一SDGs未来都市として内閣府から選定されています。教育、人権、水や食料、エネルギーなどいろいろな観点がありますが、一番身近で皆さんに関係があるのは環境ですね。将来的にも、子どもや孫の時代も含めて、地球の環境をしっかり守っていかないといけないと思います。

我々人間が生きていく中で、どうしても環境をいじめているところがあります。普段あまり意識しないかもしれませんが、それを見える化して伝えていくことが大切だと思います。チューリップやコンタクトケースの話を発表してくれました。身近なことから行動するという非常によい取組だと思っています。自分たちの取組をどんどんSNSなどでPRして、一人一人が意識して協力してくれるよう呼びかけると良いですね。

マイクロプラスチックの話もありました。庭に置いて使う緑色のマットが劣化して、雨で流れ出てしまうこともあるようです。人工芝でも同じようなことが言えて、小牧市でもいくつか使っている施設がありますが、今後使用を止めることを考えています。すぐに止めることはできないのですが、流れ出ることを防ぐためのシートを敷くことを義務化しようかと考えています。

リサイクル率は愛知県下1位を5年くらいキープしていました。去年抜かれてしまっただけで今は2位です。県内の最終処分場が満杯になってきているので、各市町が愛知県に新設を要望しています。逆に県からは燃やすごみの搬入を減らしてくださいと言われていきます。

最近、全国で初めて、市と飲料業者3社とリサイクル業者の5社でペットボトルの水平リサイクルの協定を結びました。これまでペットボトルは他のプラスチック製品にリサイクルされていましたが、技術的に水平リサイクルができるようになってきたので、協力しましょうという協定です。これからはお店や他市町で回収したペットボトルをどうするかが課題です。

行政も一つずつ頑張っていくと思いますが、皆さんも消費者として意識を変えていく必要はあると思います。その内容をSNSで発信してもらって「当たり前だよな」という輪が広がっていけばいいなと思います。

Aグループ発表

はじめに、外国人から見た小牧市はどのようなイメージがあるかを話します。

まず、自然が豊かで環境が整備されている、暮らしやすいまちだと思います。私の母国の太平洋の海岸地帯では四季がありません。小牧市には四季を楽しめる公園があって、とても魅力的だと思います。そして、周りの市と比べてきれいなまちだと思います。また、メナード美術館や小牧山、歴史のある建物が多くて良いと思います。



次にホームページです。小牧市のホームページでは、英語、スペイン語、ポルトガル語などの多言語で見ることができて、情報も見やすくまとまっていて便利です。外国人緊急カードが多言語で作られていて緊急時の連絡先が書かれているのも、すごく便利だと思いました。

小牧市で改善してほしいことについて話します。

外国人が多いのに、外国人生徒のための国際教室がないところがあります。私が以前通っていた小学校には国際教室があって、英語やタガログ語、ポルトガル語が話せる先生に英語や日本語を教わることができました。日本人に外国の文化をわかってもらうだけでなく、外国人が日本の文化を知ることも大切だと思います。



次は、私が日本に来て受けた文化ショックです。日本では、お礼やあいさつするときにおじぎをしますが、外国では負けたときやお詫びのときにします。そして給食の当番です。パキスタンでは、カフェテリアで自分が食べたいものを買えますが、日本ではみんな同じ時間に同じ場所で同じものを食べるという習慣がありショックでした。次は掃

除です。外国では自分たちで掃除をしません。学校で掃除をすることで、大人になってからも自分の部屋の掃除ができるし、とても良いことだと思いました。

外国人はこういうことをよく知らないので、日本の文化やマナーが学べる国際教室があって、外国語が話せる先生がいたらいいなと思います。

外国人が一番困るのが病院に行くときです。病院では難しい用語が使われていて、学校に通っていない外国人はとても困ります。例えば、私の両親が病院に行くときに私と弟と一緒に行けないと、両親は病気の原因が分からないまま帰ってくる人が多いです。こういう問題を避けるために、小牧市の病院に翻訳機器を置いてもらえる一番いいと思います。同じように119番通報も対応してもらえたらとてもいいと思います。

次に、宗教の理解について話します。

私は、アルバイトの面接でヒジャーブを理由に断られました。ヒジャーブは私が身に着けているものです。日本は、なじみのない宗教への理解が少ないです。この問題を改善するための方法があります。

一つは、文化交流プログラムを増やすことです。こども未来館では、幅広い年齢の人に合ったさまざまな活動があり、多文化交流の場所を提供しています。さらに交流の機会を増やすため、中央図書館などにもグローバルラウンジを作るといいと思います。外国人が日本語と日本の文化を学べるだけでなく、日本人に外国のことを知ってもらうことができると思います。

もう一つは、多文化フェスティバルです。名古屋市ではペルーやネパール、タイのフェスティバルが行われています。外国の食べ物やダンスを楽しみながら、その国の文化について知ることもできます。パークアリーナ小牧や四季の森などでも同じように開催できると思います。

次に、情報の提供について話します。

外国人に届く市の情報は、日本語で書かれています。多言語のブックレットはありますが、普段は小中学校だけでもらっていて、他の外国人は大切な情報をもらうことができません。そのため、外国人が何語を使っているのかを調べて、情報を届けることができたなら一番いいと思います。しかし調べるのに時間がかかるので、それ以外の方法を考えました。



それは、多言語で使えるアプリを作ることです。ホームページは多言語でも見られますが、もっと身近なスマホで簡単に情報を取り入れることができるといいと思います。

最後に、伝えておきたいことわざがあります。

Charity begins at home.

「善行はまず家から」という意味です。家が小牧市だとすると「善行はまず小牧市から」となります。今日挙げた問題点は、小牧市だけでなく日本全体で改善すべきだと思います。だから小牧市で問題がなくなったら、近くの市にも広がって行って、外国人も安心して暮らせるのではないかと思いました。

市長講評（Aグループ発表後）

ありがとうございました。日本と外国では文化が違うので、お互いに理解して認め合いましょうということは非常に大切です。

小牧市には多文化共生推進室という部署があります。小牧市は県内でも外国人市民の割合がトップ3を争うくらい多いです。60カ国くらいから約1万人の方が来ています。その方たちが定住して、子どもたちも小牧で生まれて小牧で育っています。

異文化への理解はとても大切です。ヒジャーブでアルバイトが断られたという事例は、改善していかないといけないと思います。いろいろな宗教の方がいますから「そのままでもいいよ」と受け入れるお店が増えたほうがいいと思います。まずはその店に来るお客さんが「そのままでもいいよ」と言えるようになるといいですね。

日本もそういう風にならなくていいし、変わっていくと思います。多様性が受け入れられる社会になってきているので、あまり心配しなくてもよいかもしれません。異文化理解や多文化共生についてはおっしゃるとおりだなと思いました。

一方で、言語については難しいところもあります。60カ国から来ているので、すべての言語に対応することはできません。行政もいろいろ努力をして、ホームページではやさしい日本語や英語、たくさんの方が来ている国の言語で情報発信しています。日本の母国語は日本語ですので、すべての言語に対応すべきでないと思っています。まずもって、自分の身の安全に関わる簡単な日本語はぜひ身に付けてほしいと思います。

最近では、機械で翻訳する技術もすごく進歩しているので、そういったものを活用すれ

ばある程度のコミュニケーションは解決できると思います。小牧市も多言語翻訳機を導入しました。市役所にも置いてありますので、ぜひ活用してほしいと思います。

行政として、必要な情報を届けることができる努力はしていきます。言語についてはお互いの努力が必要だと思います。

日本もどんどん少子化になっていて、労働力不足が心配されます。2040年ごろには1,000万人以上の労働力が足りなくなると言われています。海外の人材は、日本としても受け入れていきたいんです。お互い不満を抱えてしまうと、日本人も外国人もどちらにとっても不幸なことなので、そうでない社会をつくっていく必要があります。まず小牧高校から、お互い努力していけるといいですね。

市長講評（おわりに）

皆さんありがとうございました。3グループから発表してもらいましたが、それぞれ事前に準備をしてくれて、熱心に自分たちの思いを含めて発表いただきました。

若い皆さん方の感覚も随所に現れているなと感じました。SNSの話もありましたが、やはり皆さんがどんな感覚で小牧市や社会のことを見ているのかは、私たちにとっても大切です。今回発表を通じて皆さんの感覚を肌で感じる事ができたので、非常にありがたい機会でした。

どの分野もそうですが、すべてのことを行政ができることではありません。市長がいくら「こういうまちにしたい」「もっと環境を良くしたい」と思っても、市長だけでできることには限りがあります。

皆さんが「もっといいまちにしたい」「このまちにはこんな課題がある」と思ったとしても、行政だけではなく、市民の皆さん、企業や学校、市民団体の皆さんが一緒になって進めていかないと、なかなか変わっていきません。

皆さんも、一人の消費者として、小牧高校の生徒として、一人の市民として、それぞれの立場でいろいろ思うことがあると思います。少しでもいいので、今日を機会にまちづくりや社会について関心をもって、できる範囲でできることを始めてみてほしいです。SNSで発信してみる、環境に良いことを1つしてみる。皆さんが良い方向に行動していくことが、良い社会をつくることにつながります。

最後になりますが、今日を機会に、地域のために、社会のためになる行動を皆さんがしてくれるといいなと思います。高校生の皆さんも活躍できると思うので、ぜひまちづくりに力を貸してほしいです。

今日は本当にありがとうございました。

参加していただいた生徒の皆さん

ワカル アティカ さん	山崎 佳吾 さん	池田 拓実 さん
かすたねだ みつえ さん	笠井 夏向 さん	天春 陽菜 さん
カトリ スベツチャ さん	水野 蒼唯 さん	高橋 夢永 さん
ワカル カイナット さん	三輪 千暁 さん	今井 亮太 さん
和田 沙羅 さん	渡邊 さくら さん	尾野上 龍生 さん